



平成 28 年 10 月 25 日

各 位

上場会社名	近畿車輛株式会社
代表者	代表取締役社長 岡根 修司
(コード番号)	7122 東証第 1 部)
問合せ責任者	経理部長 益田 浩
(TEL)	06-6746-5231)

平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期の連結業績予想の修正並びに 期末配当予想の修正（無配）に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 28 年 8 月 4 日に公表した業績予想を下記のとおり修正するとともに、期末配当予想を無配に修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	19,000	△400	△600	△700	△101.69
今回発表予想 (B)	18,500	△11,500	△12,000	△12,000	△1,743.24
増減額 (B-A)	△500	△11,100	△11,400	△11,300	
増減率 (%)	△2.6%	—	—	—	
(ご参考)前年第2四半期末績 (平成28年3月期第2四半期)	16,339	998	932	816	118.64

※当社は平成28年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合にする株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	45,000	△1,000	△1,300	△1,500	△217.91
今回発表予想 (B)	45,000	△12,100	△12,700	△12,800	△1,859.46
増減額 (B-A)	—	△11,100	△11,400	△11,300	
増減率 (%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	44,021	1,423	1,207	865	125.75

※当社は平成28年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合にする株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

・平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正の理由

第 2 四半期累計期間につきましては、急激に進んだ円高の影響により、米ドル建て案件の社内レートを 1 ドル 110 円から 100 円に変更いたしました。その結果、受注残高および利益水準が減少し、当第 2 四半期では約 30 億円を受注損失引当金として計上いたします。

また、新規案件が多数集中し、製作に至るまでの調整等に想定以上の多くの時間を要したため、人件費の上昇と納期短縮に伴う部品調達の高コスト化につながったほか、製作面では技能者不足のため生産ラインの効率化が目標に達せず、約 80 億円という損失発生が見込まれることから、当第 2 四半期に同額を受注損失引当金として計上いたします。

これにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも前回（平成 28 年 8 月 4 日）発表予想を下回る見込みです。

・平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正の理由

通期につきましては、第 3 四半期以降の業績悪化要因を今回の引当で処理しますため第 3 四半期と第 4 四半期の業績予想は据え置き、第 2 四半期累計期間の業績悪化の影響により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益とも前回（平成 28 年 8 月 4 日）発表予想を下回る見込みです。

2. 期末配当予想の修正について

(1) 修正の内容

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想 (A)	—	0.00	—	未定	未定
今回発表予想 (B)	—	0.00	—	0.00	0.00
当期実績	—		—		
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	—	0.00	—	3.00	3.00

(2) 修正の理由

当社では、株主に対する継続的な利益の還元を経営上重要な施策の一つとして位置付けており、受注産業としての性格上、事業年度毎に受注環境に大きな変動が生じやすいため、業績の状況に左右されない安定配当を行うことを基本方針としております。しかしながら、前述の業績予想の修正を踏まえました結果、誠に遺憾ではございますが、これまで未定としておりました期末配当金の予想を無配とさせていただきます。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上